

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2019

March
No.1085

3月

表紙

ほんべつ豆まかナイト2019
人気の豆寝風呂に漬かり、
「い〜豆加減だよ〜」



Pick up

- ✿ ほんべつ豆まかナイト2019・道の駅「ステラ★ほんべつ」冬あがり
- ✿ 本別町しごと体験交流館がオープンします
- ✿ ボランティアクラブかめをご存知ですか？
- ✿ 歴史写真館@ほんべつ最終回「さよなら、平成」

北海道観光応援隊として道内を中心に活動するハンバーガーボーイズが登場し、町内の小学生とともに「豆なアナタに首ったけ」を歌ってステージを盛り上げたほか、激！豆まき！では鬼役としても会場を沸かせました。

また、高橋正夫町長との懇談では、「今回は豆をテーマにした曲も歌います。音楽を通して、北海道の観光を盛り上げたい！」と語りました。

HAMBURGER BOYS (ハンバーガーボーイズ) 登場！



サブカルの世界



十勝サブカルチャー振興推進サークル「モロコローム」もイベントに協力。来場者と交流しました。

午後3時の開豆（オープニング）では、義経太鼓演奏の後、イベント成功を祈って豆折拂が行われ、会場には豆と一緒に滑り降りる豆スライダーや、大豆いっっぱいの豆風呂コーナーが設置されました。今年は7種類の豆を使っただけで、巨大豆アートの初登場。来場者が協力して元気くん鬼の絵を完成させました。

豆マルシェでは、金時豆のクロッチェパーガーなどの豆料理が提供され、特産品コーナーも大好評。ステージでは、わんこ黒豆うどん選手権や祈願豆浴び！、ハンバーガーボーイズのライブなどが行われました。

メインの激！豆まき！では、小学校教諭、警察署員、鬼嫁など個性豊かな10組の鬼が次々にステージに登場。ゴキグルを装着した参加者が、約2トンの大豆を力いっぱい投げつけました。会場は熱気に包まれ、家族連れなど町内外から訪れた多くの参加者は多彩な豆の催しを楽しみました。

総重量2トンの大豆、飛び交う！



あいさつする
岡崎商工会会員



鬼役で本別警察署が今年初登場！



ほんべつ 豆まがナイト 2019



本別町の特産品である「豆」をテーマに町商工会青年部（池田圭吾部長）が中心となって節分を盛り上げるイベント「ほんべつ豆まがナイト2019」（町商工会主催）が1月26日、町体育館を会場にして開催されました。約800人が来場したイベントは、総重量2トンの本別町産大豆を使い、日本一の豆のまちを発信する多彩な催しを展開されました。

豆のまち 若者のまち

イベントを主管する商工会青年部を中心に、JA本別町青年部や、役場と農協の若手職員グループなど若人が、イベントの趣旨に賛同し、運営に協力しています。「まく豆作ろうプロジェクト」では町内の子供たちへの食育も行なうなど、まちづくり・人づくりの役割も担いながら、1年がかりでイベントを実行。本別の次世代を支える若者たちが一致団結して、豆のまちを盛り上げています！



地域力を活用し 児童がアイス キャンドルを制作

共栄自治会の有志で組織される輪楽生（わらう）会が1月29日と30日、本別中央小学校1年生28人とともに、冬あかり会場に並べるアイスキャンドルを作りました。児童らは生活の授業のなかで、同会の大越誠さんと島田敏さんから指導を受け、約40個のキャンドルを制作。当日は冷え込みが厳しかったため、重量感のあるキャンドルが完成しました。

同会は過去に、毎年キャンドルを500個制作してきた経験があります。同校を含めた本別・仙美里地区では平成31年のコミュニティ・スクール（CS）制度本格導入に向けて、同会のような地域力により、子どもの学びや体験活動の広がりが期待されています。



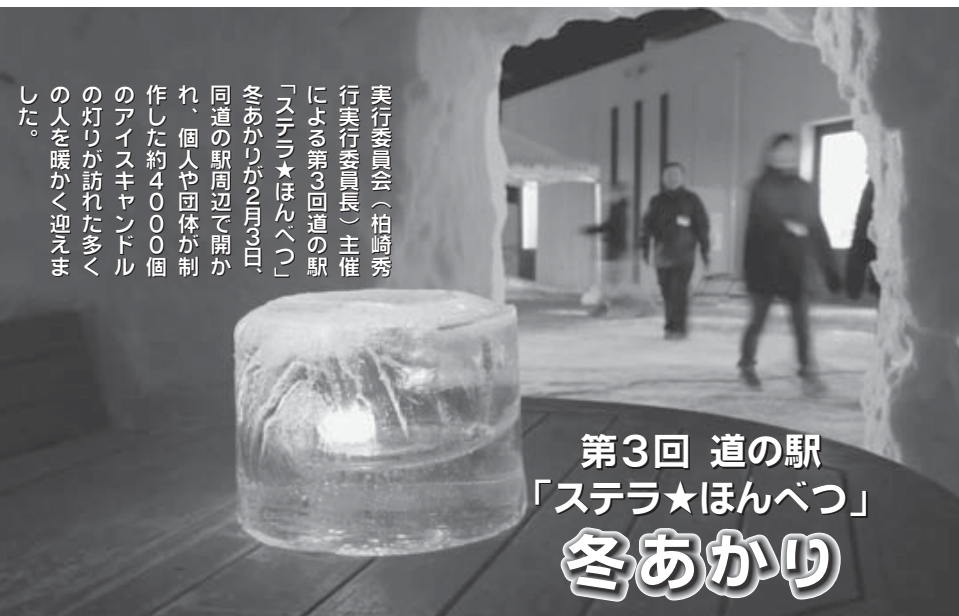
認定こども園ほんべつ

本別中学校

本別高校

本別中央小学校

ジャンボ滑り台



第3回 道の駅 「ステラ★ほんべつ」 冬あかり

キャンドルの光に魅せられて



銀河通りの様子

午後4時に行われた点灯式の後、ボランティアスタッフがロータリー周辺に並べられたアイスキャンドルに次々と火を灯しました。日暮れとともに、ろうそくの灯りや、カラフルに投影されたプロジェクションマッピングの光が幻想的な世界を作り上げ、来場者を魅了。会場内では、本別建築士会が制作したジャンボ滑り台や雪中宝探しを楽しむ人、温かい食べ物を買い求める人にぎわうなど、思い思いに冬のイベントを満喫しました。

国民年金 コーナー

その203

国民年金保険料の 産前産後期間の 免除制度が始まります

次世代育成支援のため、国民年金第1号被保険者が出産したとき、出産前後の一定期間、国民年金保険料が免除される制度が始まります。

対象となる人

国民年金第1号被保険者で、出産日が平成31年2月1日以降の人

施行日

平成31年4月1日

免除期間

出産予定日または出産日が属する月の前月から4か月間の国民年金保険料が免除されます。

なお、多胎妊娠の場合は、出産予定日または出産日が属する月の3か月前から6か月間免除されます。

※出産とは、妊娠85日（4か月）以上の出産をいいます。死産、流産、早産された場合を含みます

産前産後期間の取り扱い

産前産後期間として認められた期間には、保険料を納付したものととして老齢基礎年金の受給額に反映されます。

届け出時期

出産予定日の6か月前から届け出できます。ただし、届け出ができるのは平成31年4月1日からです。

必要なもの

・マイナンバーカード（個人番号カード）

マイナンバーカードをお持ちではないときは、①と②をお持ちください
①マイナンバーが確認できる書類（通知カードなど）
②本人確認書類（運転免許証、パスポートなど）

・母子健康手帳（出産前に届け出をする場合）
・出生証明書など出産日および親子関係を明らかにする書類（被保険者と子が別世帯の場合）



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ
022-8128

日本年金機構のホームページは
<https://www.nenkin.go.jp/>

将来に渡って活力ある地域を維持していくために

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のさらなる推進を目指して

その7

「シリーズ地方創生」。今号では、本町の人口移動の状況と、国の地方創生関連交付金を活用し現在整備を行っている「本別町しごと体験交流館」についてお知らせします。

▼本別町人口ビジョン

平成27（2015）年10月に策定した本別町人口ビジョンでは、出生率の上昇や若者・子育て世代の流出抑制、人口の社会増をもたらし施策に重点的に取り組むことで、本町の平成72（2060）年の総人口の目標を5000人程度としています。

▼最近の人口状況

住民基本台帳による平成30年12月末の本町の人口は、7082人となっており、最近の人口移動の状況は下記の表の通りです。

近年の状況では、

①（表1）人口の推移は、

対前年2%前後の減少率で推移しています。

②（表2）平成29年計から、自然減数が社会減数を上回りました。

③（表2）社会減数は、平成29年計まで減少幅が縮小されていますが、平成30年計では、拡大に転じました。

このように、本町の人口維持に大きな要因となる社会増減の減少スピードは緩まる傾向にあるものの、依然、人口減少は進んでいます。

（表1）人口と世帯数の推移

	人 口			世 帯 数	
	(人)	対 前 年		(世帯)	対前年
平成26年12月末	7,729	△ 185	-2.34%	3,754	△ 34
平成27年12月末	7,551	△ 178	-2.30%	3,723	△ 31
平成28年12月末	7,406	△ 145	-1.92%	3,708	△ 15
平成29年12月末	7,253	△ 153	-2.07%	3,706	△ 2
平成30年12月末	7,082	△ 171	-2.36%	3,662	△ 44

（表2）社会増減と自然増減の状況

	社 会 増 減			自 然 増 減		
	(人)	内 訳		(人)	内 訳	
		転入	転出		出生	死亡
平成26年1月～12月	△ 115	307	402	△ 70	49	119
平成27年1月～12月	△ 100	292	392	△ 81	26	107
平成28年1月～12月	△ 94	301	395	△ 51	54	105
平成29年1月～12月	△ 55	320	375	△ 95	33	128
平成30年1月～12月	△ 83	315	398	△ 84	32	116

※表1の人口の対前年増減数と表2の社会・自然増減の合算値の差は職権消滅等による

平成31年4月～

本別町しごと体験交流館がオープンします



町は、国の地方創生拠点整備交付金を活用し、平成29年3月に開所した旧本別町南保育所（南4丁目）を部分改修して、新たに本別町しごと体験交流館（宿泊施設）をオープンします。本町におけるしごと体験や交流、研修等を通じて、地域産業等の振興に必要な人材確保と本町への定着を図ります。

4月のオープンに向け、準備が進められています（旧南保育所）

総整備事業費見込み：40,834千円
（うち交付金 18,325千円）

施 設 案 内

【宿泊室（全6室）】

1室4人まで利用可能
テレビ、冷蔵庫、寝具、Wi-Fi環境完備

【共有スペース】

- シャワー室 ユニット2室
- 洗面室 洗面台3台および洗濯機2台
- 調理室 調理用具および食器等一式
- トイレ 男女別
- 交流室 利用者間の交流スペース
- 研修実習室 施設内での研修の際に使用

利 用 料 ※食事なし

- 1泊につき 1室あたり：900円
1人あたり：600円

- 1室1名の場合 1,500円
- 1室2名の場合 2,100円
- 1室3名の場合 2,700円
- 1室4名の場合 3,300円

- ※1 連続して利用する場合、15泊目以降からは1人あたりにかかる利用料（600円）が1/2に減額されます
- ※2 冬期間（11月～4月）は1室1日につき300円の暖房料が加算されます

利 用 申 し 込 み

利用予定日の7日前までに、役場企画振興課地方創生推進室へ使用申請書の提出が必要です。

利用できる人

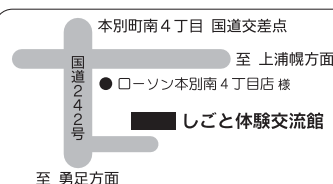
町内の事業所等における就労体験や研修の計画を持った個人や団体が使用できます。



町内外の学生を対象に開催している「ほんべつ福祉セミナー」

利用期間や使用時間

利用期間は年間6か月以内で、利用開始日の午後2時から利用最終日の午前10時まで使用できます。



「本別町しごと体験交流館」内覧会を行います

多くの町民の皆さまに知っていただくため、施設の内覧会を以下の日程で開催します。どなたでも見学できますので、お気軽にご来場ください。

と き 平成31年3月24日（日） 午後1時～午後4時
と ころ 本別町南4丁目1番地45

問い合わせ 企画振興課 地方創生推進室 ☎22-8121

ボランティアクラブかめをご存知ですか？



「この背中、どこかで見たなあ？」

彼らは、本別ボランティアクラブかめ（以下「かめ」として活動する、町内の中学生・高校生です！若い力で町を盛り上げるその活動についてお伝えします。

かめとは？

WHAT?

本別町の中高生が、昭和60年からジュニアリーダー研修を実施している宮城県志津川町（現南三陸町）と交流を続けてきたことをきっかけとして、平成8年に設立されたジュニアリーダー・ボランティア団体。現在は中学生10人、高校生7人の合計17人が、自分たちの生まれ育った本別町のために、また自分たちのスキルアップのために日々活動しています。

自主研修活動やイベントのボランティア活動、ジュニアリーダー活動を行い、上級生が中心となって自分たちで事業の運営を図りながら、会員同士の交流を深めています。

かめの活動① 「自主研修活動」

かめの活動に必要な知識や技術を学ぶこと、会員同士の交流を図ることを目的に自主研修会などを開催します。会員は、研修会が近づく中央公民館に集まり、自分たちで研修内容について計画し、参加者に向けた資料やレクリエーションの道具などを製作。当日は進行も行い、ジュニアリーダーの基礎知識を学ぶ講義やレクリエーション実践講習など、高校生会員が中学生の後輩会員に指導します。自分たちが研修会を作り上げることで実力がつき、他の活動にも自信を持って取り組むことができるようになります。ときには卒業生が駆けつけて活動を見守ることも。困ったときには親身になって相談を聞き、サポートする姿は、先輩から後輩へとかめの伝統が伝わっていく瞬間でもあります。

かめの活動② 「ボランティア活動」

商工会主催の夏まつりや、社会福祉協議会主催の高齢者運動会など、団体のイベントに参加し、お手伝いするボランティア活動は、各団体から大変喜ばれています。近年、少子高齢化・核家族化が進み、地域での交流の場が減少するなか、会員はボランティア活動を通して、高齢者や子供たちなど幅広い世代と交流。人と接し、話しをすることで、観察力、適応力、自分は今何をすべきか考える力が養われます。かめの活動は原則自由参加ですが、会員のほとんどは「誰かのために」よりも「自分のために」と考え、ボランティアを純粋に楽しみます。イベント関係者からは、「人と接する時はいつも笑顔で、辛い顔など見たことがないね」とお褒めの言葉もいただきます。

かめの活動③ 「ジュニアリーダー活動」

自主研修などで学んだことを生かしつつ、「あつまれ！銀河キッズ」など小学生向けの交流事業や、南三陸町との交流会を運営するなか、ジュニアリーダーとしての活動を行います。ジュニアリーダーとは、小学生にとつての良きお兄さんお姉さん。レクリエーションなどをしながら一緒に遊んだり、子ども同士で話し合いがうまく進むように手助けをしたりするなど、常に子供たちに囲まれて休む暇などありません。また、小学生の良きお手本でもあります。小学生の成長には、大人も含めた年齢の異なる人達とのさまざまな体験や交流が欠かせません。ジュニアリーダー養成講座により、会員は人前で話せる力やグループをまとめる力など、リーダーシップを発揮できる力を身につけます。

活動③

あまれー銀河キッズ ジュニアリーダー養成講座 三市町リーダー研修



小学生の料理実習をサポート



初級生とともに野外で事前研修



帯広・白根・本別のリーダーが交流

活動①

冬季自主研修会



活動課題について意見交換

活動②

ほんへつ夏まつり



子ども盆踊りでのお手本を披露



きらめきタウンフェス会場で呼びかけ

赤い羽根共同募金活動

私にとってかめの活動は、成長するきっかけの場です

本別ボランティアクラブかめ
会長 佐藤 朱理（本別高校2年）

かめに入ったのは中学2年生。南三陸町で行われたジュニアリーダー初級研修会への参加がきっかけでした。まず驚いたのは、大人の手を借りずに自分たちで活動を進めていく先輩の姿。同じ中高生とは思えませんでした。「私も人の前に堂々と立ってみんなを引っ張っていける人になりたい」との思いから活動を始めました。

高校生になり、今度は後輩をサポートする立場で南三陸町へ派遣され、活動の統括も任されるようになりました。全体をまとめることの難しさに苦戦するなど、今でも不得意なことはありますが、かめの仲間と助け合いながら乗り越えています。

自分たちが何をすべきか考え、周りを見て行動する。この力は学校生活や将来の自分に役立つものだと思います。支えてくださっている皆さんに感謝の気持ちを忘れず、多くのことを学び、活動に励みたいと思います。これからも本別ボランティアクラブかめをよろしくお願いいたします。



佐藤会長（右）

私たちと一緒に活動する仲間を探しています

会員募集中！



かめの活動 情報発信中！

かめのフェイスブックページでは、活動の様子を掲載しています！ぜひご覧ください！

<http://www.facebook.com/hvckame/?ref=bookmarks>



問い合わせ

町教育委員会社会教育課社会教育担当

☎ 22-5111



本別町 平成のおもな出来事

年	4年 (1992)	3年 (1991)	2年 (1990)	平成元年 (1989)
1月	10月9月 義経山に地割れ	9月8月 開基90年記念式典 オーストラリア・キルモア町と姉妹都市提携	12月4月 義経大橋完成	12月6月 ふるさと銀河線開業 愛のかけ橋完成

13年 (2001)	12年 (2000)	11年 (1999)	10年 (1998)	9年 (1997)	8年 (1996)	7年 (1995)	6年 (1994)	5年 (1993)
9月 島根県小松島市と友好都市提携	7月 開町100年事業「ライブセレクション」	3月1月 「健康長寿のまちづくり条例」制定	6月5月3月 太陽の丘・医療福祉3施設の合同落成記念式典 口蹄疫発生 ほんべつ元氣まつり	10月 訪問介護サービス開始	8月3月2月 道立農業大学校新校舎完成 美里別小学校開校 大雨で河川運動公園冠水（その後、激甚災害に指定）	9月4月 第1回きらめきタウンフェスティバル	10月9月 本別高校創立50周年と新校舎落成を祝う式典 本別中学校新校舎落成記念式典	8月 駅前通りの愛称「銀河通り」に決定

この年
日本では
1月7日、
新元号「平成」
の発表



12月4日、愛のかけ橋竣工渡橋式

9月11日、ふるさと銀河線本別駅・本別コミュニティセンター「ステラプラザ」オープン



この年
日本では
介護保険制度
スタート

太陽の丘に建設された国民健康保険病院、総合ケアセンター、アメニティ本別



昭和21年、前身である道庁立農業講習所開設。同49年に道立農業大学校となる。平成11年5月、改築落成および創立50周年記念式典開催。

12 平成31年 最終回 さよなら、平成

この年
日本では
北海道で
地デジ放送
開始



線「おる多く」100年
えた。

4月20日、ふるさと銀河別れセレモニーに集ま
の住民や鉄道ファン。終
間続いた鉄道が役目を終

この年
日本では
3月11日、
東日本大震災
発生

3月20日、
宮城県南三陸町へ
救援物資を届ける
支援隊が出発。以後、
町職員の派遣、企業や個人による
義援金や物資、「復興市」への参
加など、支援の輪が広がった。



※上段から続く

平成30年4月号からスタートした「歴史写真館@ほんべつ」最終回は、平成31（2019）年。この30年間を振り返る拡大版です。平成は国内外でさまざまな事件や災害が続き、本町でも多くの被害がありました。それらを乗り越える原動力となったボランティア活動が、多方面に発展し、まちづくりの力となっていることは、平成時代の大きな特徴といえます。時代の一区切りを迎え、ふるさとの過去と現在を知り、未来に物語を伝えたいものです。

31年 (2019)	30年 (2018)	29年 (2017)	28年 (2016)	27年 (2015)	26年 (2014)	25年 (2013)	24年 (2012)	23年 (2011)	22年 (2010)	21年 (2009)	20年 (2008)
4月 さよなら、平成	9月 胆振東部地震発生（M6.7）による大規模停電	4月1月 北海道日本ハムファイターズ応援大使に有原航平・大栗進両選手認定（この日も園はほんべつオープン（中央保育所・南保育所・カトリック幼稚園が統合）	8月 四つの台風による被害甚大	7月2月 太陽の丘野球場オープン	4月3月 学校給食共同調理場完成	3月 仙美里中学校開校	4月3月 農産物もつくり館「ゲンキキッチン」オープン	9月3月 東日本大震災被災地の南三陸町へ支援隊派遣 開町110年記念式典	3月 街路灯のLED化開始	11月 北海道横断自動車道本別・浦幌間開通	12月8月 マイマイガ大発生（翌年も） 「犯罪被害者等支援条例」制定

19年 (2007)	18年 (2006)	17年 (2005)	16年 (2004)	15年 (2003)	平成14年 (2002)
9月 「ほんべつ学びの日」宣言	4月2月 「個性あるふるさとづくり」寄付条例開始 ふるさと銀河線廃止、代替バス運行開始	12月8月 「福祉でまちづくり」宣言 「個性あるふるさとづくり」寄付条例開始	7月 町地域新エネルギービジョン完成	10月9月 池北三町合併協議会発足	12月11月7月 道東自動車道池田・本別・足寄間開通 十勝沖地震発生（M8.0） 西保育所開所、「子育て支援センター」がスタート 町地域新エネルギービジョン完成 本別ひまわり三千坪迷路初開催 環境省の一般廃棄物処理事業実態調査でリサイクル率全道1位

問い合わせ
歴史民俗資料館
☎ 22-2141 内410
図書館 ☎ 22-5112



佐藤隆史さん
第1分団 班長
松月堂社長



我が町の消防団員



池田圭吾さん
第1分団 団員
源すし社長



鹿島隆史さん
第1分団 団員
鹿島組専務



西野由美さん
本団 女性消防団員
ローソン本別南四丁目店員

消防団員募集

本別消防団は、新しい仲間を募集しています！
災害に強い町を目指して、共に我が本別町を守りませんか？

- 募集人員** 若干名
- 応募資格** 本別町内に居住または勤務する満18歳以上の健康な人で、消防防災活動・ボランティア活動に興味のある人
- 活動内容** 火災等災害出動・定期訓練・火災予防運動 等
- 処遇等** 各種出動手当・公務災害補償・制服等被服貸与 等
- 応募方法** 消防団入団希望の人は、お近くの消防団員または本別消防署にご連絡ください
- 問い合わせ** 本別消防署 消防課 消防係 ☎22-2007

北河神大内井安
原田野和達
七吉紗結天才心
楓平帆仁梧千咲
関沢佐佐今楠北
根口藤藤野茂村
隆花莉葉悠香
太那名葵月都帆
西西中戸天塚田谷瀧
山田川田日田畑澤
咲哲愛岳聡宏七大
美心結志子翼樹美晟

本別中央小学校 (33人)

町教育委員会では、今年4月に小学校へ入学する児童の名簿を作成し1月末に保護者宛に就学通知書を送付しています。今年の新生は、平成24年4月2日から平成25年4月1日までに生まれた児童で、本別中央小学校33人、勇足小学校8人、仙美里小学校5人の合わせて46人です。該当する人でお名前がない、または、就学通知書が届いていない人がいましたら、早めに教育委員会管理課学校教育担当(☎2212331)にご連絡ください。



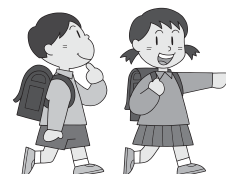
吉吉山山藤杉金上
川川田下枝山山田
昊慧凛和孝誠
葵椰和花輔涉葵志郎

勇足小学校 (8人)

渡横山山盛松幕半濱西
辺山本本本内谷名山
紗大妃紗萌遥桃咲
弥翔菜由夏望斗翼佳輝

新塚齊方大
津林藤川田
颯こと歩洋知
涼ね睦峰咲

仙美里小学校 (5人)



平成30年度 勇足小学校入学式

HELLO 本別高等学校

校訓 創意実践

本高の行事・部活動

芸術鑑賞（古典芸能編）

9月26日、落語家の桂かい枝さんから2人による学校寄席が開かれました。3年に一度実施するもので、落語など聞いたことがない生徒たちにとって、楽しいひとときとなりました。体験コーナーでは、生徒代表が師匠の手ほどきを受け落語に挑戦。会場を笑いでいっぱいしました。



見学旅行（2学年）

10月29日から5泊6日の日程で、2年生が見学旅行に出発。奈良、京都、大阪を中心に、歴史ある神社仏閣や、湯豆腐、お好み焼きなど、北海道とは異なる文化に触れました。自主研修では名所巡りやスイーツ作り、着物を着て散策するなど、思う存分日本の歴史と関西の文化を堪能。ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）でも楽しみました。友情も深まり、思い出に残る5日間となりました。



老人ホームでXmasコンサート！

12月23日、吹奏楽部とボランティアクラブが老人ホームを訪問し、毎年恒例のクリスマスコンサートを行いました。吹奏楽部は演歌メドレーやクリスマスメドレーなど5曲、ボランティアクラブは、ハンドベルの演奏でジングルベルなど3曲を演奏。短い時間でしたが、入所されている皆さんに楽しんでいただきました。



今後の主な行事

3月1日 卒業式

3月22日 修了式・離任式

※ホームページにさまざまな情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

北海道本別高等学校

中川郡本別町弥生町49番地

TEL：0156-22-2052 / 2068

<http://www.honbetsu.hokkaido-c.ed.jp/>



母の会が40年余りの活動に終止符 道警音楽隊・交通安全演奏会を開催

本別町交通安全母の会（田西喜代会長、会員7人）が主催する道警音楽隊「交通安全演奏会」が2月15日、中央公民館で開かれました。交通安全運動の推進活動を40年余りにわたり続けてきた同会の活動は、同演奏会を最後に、幕を閉じました。

「交通事故に遭わない、起こさない」の合言葉、これからも…

田西会長は、「会員が高齢化し歩くのも大変。街頭での呼び掛けも辛くなり、会員で相談し、今年度で活動を終了することとなりました。これからは『交通事故に遭わない、起こさない』を合言葉にお過ごしください。今日は、素晴らしい演奏を楽しんで」と長年の活動支援に感謝のあいさつを述べました。本別町交通安全協会の長谷川隆司会長は「多くの気配りある活動をしてきた母の会の交通安全に掛ける思いを、町民の皆さんと一緒に受け継いで活動したい」と祝辞を述べ、松谷剛本別警察署長からは感謝状が贈られました。

演奏会では、道警音楽隊が同母の会へ感謝の気持ちを込めて演奏した「愛燦燦（あいさんさん）」を含め全15曲を披露。カラーガード隊によるドリル演技も行われ、180人の来場者を魅了しました。



（写真上左） 同会の長年の啓発活動の功労をたたえ、松谷剛本別警察署長が感謝状を贈呈

（上中） 同演奏会では行進曲や演歌、アニメソングなど幅広いジャンルの曲が演奏されました

（上右） 隊員による寸劇では特殊詐欺に注意を呼び掛け

（下） 9人のカラーガード隊が華やかなドリル演技を行い、多くの来場者を楽しませました



平和ポスターコンテストで日本代表に

ライオンズクラブ国際協会が主催する平和ポスターコンテストの地元コンテスト入賞者等表彰式が2月14日、本別中学校で行われました。同コンテストは11～13歳の児童・生徒を対象に実施され、今年のテーマは「思いやりは大切なこと」。審査の結果、本別中学校1年の山根桃香さんが最優秀賞、2年の西村真優さんと廣瀬乃愛さんが優秀賞を受賞し、本別ライオンズクラブの岡崎勉会長から賞状などが手渡されました。また、道東・道北エリアの選考では応募作品122点中18点が入選する中、本別中からは山根さんが最優秀賞、西村さんが優秀賞、廣瀬さんが敢闘賞、1年の吉村華瑠さんがガバナー賞を受賞。さらに山根さんの作品は全道エリアでも最優秀賞に選ばれ、日本代表8作品のうちのひとつとして同協会本部（アメリカ）へ出品されました。



2 14

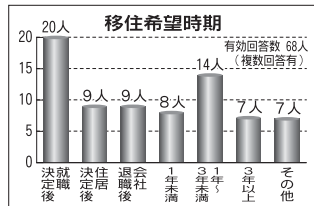
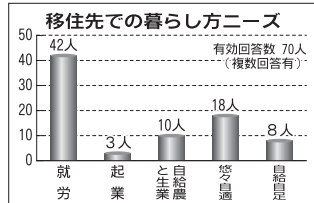
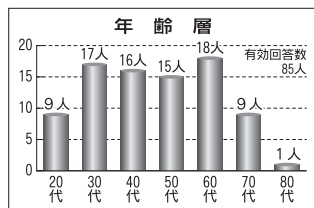
まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

地域おこし協力隊が行く



Part 7

地域おこし協力隊、移住定住推進員の横山泰平です。今年度、東京等首都圏で開催された移住セミナー、フェアでの主催者実施アンケートを基に、本別町ブースで相談された人の移住ニーズについてご紹介いたします。



問い合わせ

企画振興課地方創生推進室
☎ 22-8121
とかち東北部移住サポートセンター
☎ 33-0001
ホームページ
<http://www.akinavi.net/>

幅広い年代が北海道に憧れ 就労マッチングで移住を後押し

上段のグラフの通り、相談者の年齢層は、30代から60代のそれぞれの年代で同数程度の結果となっています。各年代で、北海道での暮らしに憧れをもっている人が多く、若い世代では、自然の豊かなところで子育てをしたいと考えている人が多いです。

中段のグラフは、移住先での暮らし方のニーズを示しており、就労を求めている人が最も多く、移住を考える上で、仕事の課題が重要であることがこの結果から見てもうかがえます。農業や事務系の仕事、これまでの経験を生かせる仕事など、ニーズはさまざまです。

また、ほとんどの相談者は、田舎暮らしによる生活の自由さや冬期間の生活について不安を抱えています。特にシニア世代では、一年間のうち、夏は地方で生活し、冬は都会の自宅に戻るといった二地域居住を望んでいる人が多く、時間的なゆとりもあることから、実際に田舎を体験する、おためし暮らしの利用ニーズが高い傾向です。

移住希望時期については、一年未満と回答された人は、割合ほどであり、ほとんどの相談者は、具体的な移住先は決まっておらず、仕事や生活、地域の情報収集を目的として、ブースに訪れています。

グラフでもわかるように相談者にとって移住先での仕事を決めることは、移住に際して最大の後押しとなります。仕事のマッチングが図られるよう事業者の皆さんとの連携や協力をいたしながら、今後も取り組みを進めたいと考えています。

バレーボールに親しんで

1 27

バレーボールフェスティバル（本別バレーボール協会主催）が1月27日、町体育館で開催されました。これは、町技であるバレーボールに気軽に親しんでもらおうと開かれたもので、小学生から大人まで約60人が参加。このなかで町内の小学生を対象に行われたキッズバレーボール教室には約20人が集まり、バレーボールを使ってトスやレシーブなどの基礎的な動きを交えながら、走ったり跳んだりして体を動かしました。後半には、ミニバレーのボールを使ってゲームを行うなど楽しい時間を過ごし、児童らは爽やかな汗を流しました。



技を仕掛け合う

1 20

本別町鏡開き少年柔道大会（本別柔道連盟主催）が1月20日、町柔剣道場で開催されました。大会には、本別柔道少年団の団員など幼児や小学生13人が出場。3部門に分かれた個人戦と紅白チームによる団体戦が行われ、選手は保護者の声援を受けながら、優勝目指して技を仕掛け合う白熱した試合を展開しました。



本別スケート選手権大会 力強い滑りを展開

1 26

本別スケート協会主催の第56回本別町スピードスケート選手権大会が1月26日、町民スケートリンクで開催されました。大会には、町内の幼児から小中学生までの39人が出場。100mから3000mの6種目が行われ、選手らは自己ベストの更新などを目標に日ごろの成果を発揮し、父母らの声援を受けながら、ゴールを目指して力強い滑りを展開しました。



雪上のゲームに挑戦

2 9

少年少女冬のレクリエーションの集いが2月9日、河川運動公園芝生広場で開かれました。あかげら少年団後期第2回に合わせて実施された同集いには、町内の小学生15人が参加。児童らは、町スポーツ推進委員の指導のもと準備体操で体を温めた後、2チームに分かれて移動玉入れやスノーフラッグ、そり引きリレーなどが行われ、得点を競いました。最後に行われた宝探しでは、雪山に隠された宝物を見つけて歓声を上げるなど、元気いっぱい雪上ゲームを楽しみました。



未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたぐさんの愛に包ま
れてすくすく元気に育ってね！



弥生町
伊賀夢葉
(清佳ママ)



向陽町
今津璃香
(珠希ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

みんなの 健康

415

難聴は認知症の 最大の原因!?



本別町国民健康保険病院
副院長
郡山 智也

平成29年7月、国際アルツハイマー病会議において、ランセット国際委員会が「認知症の症例の約35%は潜在的に修正可能な9つの危険因子に起因する」と発表しました。

「難聴」は「高血圧」「肥満」「糖尿病」などとともに9つの危険因子の一つに挙げられましたが、「予防できる要因の中で、難聴は認知症の最も大きな危険因子である」という指摘がされました。

近年の研究で、難聴のために音の刺激や脳に伝えられる情報量が少ない状態にさらされると、脳の萎縮や神経細胞の弱まりが進み、それが認知症の発症に大きく影響することが明らかになってきました。また、難聴のためにコミュニケーションがうまくいけなくなる、人との会話を避けるようになってしまいます。そうすると、次第に抑うつ状態に陥

り、社会的に孤立してしまう危険もあります。それらもまた、認知症の危険因子として考えられています。このようなことから「難聴が最も大きな危険因子」と言われているのです。

このことは、難聴に対処することで認知症が積極的に予防できる、ということも意味しています。耳鼻咽喉科を受診するなど難聴に正しく対処して、適切な「聞こえ」を維持することで脳を活性化し、さらに家族や友人とのコミュニケーションを楽しむことで、認知症を予防したり発症を遅らせたりする可能性が高い、というわけです。

聴力の低下を感じたら、決して放置せずなるべく早く対処しましょう。「よい聞こえ」を維持することは、認知症を予防することにもつながります。耳鼻咽喉科を活用することで、若々しく健康的な生活を送りましょう。

り、社会的に孤立してしまう危険もあります。それらもまた、認知症の危険因子として考えられています。このようなことから「難聴が最も大きな危険因子」と言われているのです。

挑戦の大切さを児童へ

215

中学・高校での生活や学習の様子を知ろうと、中学校入学を控える小学5～6年生向けのキャリア教育が2月15日、町内3小学校で行われました。この日は、本別高校3年の河野愛梨さんと西村皓成さんが講師となり、中学校からの勉強の取り組み方や学校行事など、それぞれの経験を交えてわかりやすく紹介。「勉強はコツコツと毎日の積み重ねが大事。時間を大切に」「部活やボランティア、生徒会などの課外活動をすることで、先生や仲間との大切さに気づかせてくれる」などアドバイスを含めてやさしく語りかけると、児童らは真剣な表情で聴き入り、メモを取りながら将来のイメージを膨らませました。



まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

ご寄付ありがとうございます 平成31年1月16日から2月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上に厚くお礼申し上げます。(敬称略)

★本別中学校指定

大型液晶モニター1台
…十勝池田地方法人會本別支部 支部長 朝日基光

★本別消防署指定

AEDトレーニングユニット一式 …… 匿名

★老人ホーム指定

タオル100枚 …… 匿名

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付

計金2,485,000円 …… 163人



銀河ポッドキャスト
— 足寄町・陸別町から —

足寄町

第41回

足寄町消費生活展

足寄町の農畜産物や町民から集められたリサイクル品などが出品されるほか、足寄餅つき隊によるお餅の無料配布も行われます。ぜひ、ご来場ください。

日時 3月24日(日)
午前10時～11時30分

□問い合わせ
足寄町役場住民課民生生活担当
☎2512141 内線225

陸別町

銀河の森天文台から プラネタリウム新番組 「天文台の星空」 「南半球の星の夜」

銀河の森天文台では、3月からプラネタリウム新番組「天文台の星空」南半球の星の夜」を上映いたします。チリの星の夜について学習してみませんか？

□上映時間
(月・火曜日は閉館)
1回目…午後3時
2回目…午後5時
3回目…午後8時
※1回30分程度

□入館料

《日間》 大人 300円
小・中学生 200円
《夜間》 大人 500円
小・中学生 300円
※小学生未満 無料

□問い合わせ
銀河の森天文台
☎2718100

戸籍のまど

お誕生

1月後半から
2月前半の
届出分横山 和香^{ほのか} 佳純^{か純} 1/9 南4丁目小原 哲斗^{てつと} 祐太^{ゆうた} 1/21 清流町伊藤 隼^{しゅん} 桂輔^{けいすけ} 2/2 美里別西中

おくやみ

府川 孝史^{こうし} 66歳 1/15 清流町吉田 明仁^{めいじん} 71歳 1/17 上本別近藤 彰^{あきら} 87歳 1/25 南1丁目福田 敏己^{みんき} 65歳 1/25 栄町柏原 石藏^{いしかう} 90歳 1/27 柏木町林 清秀^{しやうしゆ} 99歳 1/27 北4丁目西山 正一^{せいいち} 91歳 1/28 向陽町川岸 武^{たけし} 60歳 1/29 北5丁目水谷 格^{かく} 86歳 1/29 弥生町山田 和子^{わこ} 89歳 1/30 拓農佐藤 正司^{せいじ} 85歳 1/31 東町山下 正範^{せいはん} 76歳 2/1 勇足東5和田 勇二^{ゆうじ} 83歳 2/1 北7丁目井深 茂^{しげる} 70歳 2/4 柏木町合田 清磨^{しみず} 75歳 2/5 南4丁目薩田 富美子^{とみこ} 100歳 2/5 東町上原 丈司^{じょうし} 81歳 2/9 勇足東1佐川 しげい^{しげい} 70歳 2/11 活込高橋 和男^{わかつと} 82歳 2/12 清里

わたしたちのまち

前月比

人口 7,069人(-13)

男 3,458人(-10)

女 3,611人(-3)

世帯数 3,660戸(-2)

〔1月末日住民基本台帳〕

本のある暮らし

216

これから生まれる
赤ちゃんのために

～図書館ファースト・ブック事業～

図書館では平成21年度から、おなかの赤ちゃん和絵本でコミュニケーションを図るための「ファースト・ブック事業」を進めています。生まれてくる赤ちゃんの心とことばを育て、家族ですてきな時間を共有できる絵本。絵本づくり、読み聞かせなど、子育てにもっと絵本を活用してみましょう！

図書館おすすめの絵本セット

いずれも20冊入りで、貸出期間を気にせず利用できます。複数用意していますが、予約が重なった場合は返却をお願いします。

ファーストブックセット

おなかの赤ちゃん和妊婦さんに読んでもらいたい！優しい絵と美しいことばの詰め合わせです。胎教にいいCDもあります♪



赤ちゃんすくすくセット

生まれてからのセットも欲しい！という声にお応えして作りました。赤ちゃんが大好きな、楽しい擬音や繰り返しの話の絵本が中心です。



Q 子どもにどんな絵本を選んだらいいのかわかりません。どうやって選べばよいですか？

ママからの
質問

A まずは、ご自身が「いいな」と思う本を読んであげてください。お子さんの年齢や性別などにあまりこだわらず何度でも。「ママやパパが好きな本」にたくさん「思ひ出」という付加価値がついて、家族の大切な一冊となりますよ。



お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称:ぶつくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112